

プレスリリース

先生の声からできた 「プログラミング教育年間指導計画案 ver2」を無償提供

6月リリースのプログラミング教育年間指導計画案のダウンロード総数600以上

2020年1月30日: 教育ネットはアンプラグドから始める「プログラミング教育年間指導計画案 ver2」を無償提供はじめた。

2019年6月に提供を開始した「プログラミング教育年間指導計画案」は半年で600を超えるダウンロード数があり、多くの先生方からご意見をいただいた。その声を活かしアップデートを行ったバージョン2は、学年、教科の目標を達成するためのプログラミング教育計画として、アンプラグドプログラミングとパソコンやロボットを使ったプログラミング(フィジカルプログラミング)の連動を意識した計画案となっている。

ダウンロードサイトは https://edu-net.co.jp/?page_id=1171

アンプラグドから始めるプログラミング教育カリキュラム案		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
科目		生活	生活	算数	社会	算数	理科
活動名		「きもちのよいふれあい」	「じぶんのできるよ」	「おこくのものさし」	「買物でプログラミング」	「多角形の作図」	「電気の利用」
アンプラグドプログラミング活動	概要	時間割や、相手のよさをあいさつに思いがあるかを考える。	朝の準備について考える。ここで順次授業の前後、分岐について学ぶ。	ついた時間、やめた時間をともに、案を出した時間を求める計算の手順を考える。	地図記号と方向を使ってロボットに指示を出すことでプログラミングの基本を理解する。	正多角形の特徴を振り返り、正三角形、正六角形を作図するプログラムを考える。	電気を利用するためには、機器を制御するプログラムの作り方を考える。
	思考	分岐、一般化	順次、比較する、理由付けする	順次、分岐、評価	順次、反復、評価	順次、反復	分岐、分岐、抽象化
	教材	すぐプロ	すぐプロ	すぐプロ2	すぐプロ	すぐプロ2	すぐプロ2
発展的活動	概要					カードを使って考えたプログラムを実際にScratchでプログラミングして動きを確かめる。	電気を利用するための工夫を考えて、センサーからの入力を受けて出力を変えるプログラムを作成する。
	思考					反復	評価、改善
	教材					scratch	MEDH, Microbit, アーサーロボなど
科目		生活	算数	国語	算数	算数	算数
活動名		「きょうしつについて」	「リズムをたたく」	「ローマ字を学ぶ」	「コンパスを使った作図」	「円を使った作図」	「Go straight プログラム」
アンプラグドプログラミング活動	概要	教室について考える。動きのよいカードを使って考える。	リズムカードを使ってくり返しのある音楽を作る。	子音と母音やかなローマ字を組み合わせ、子音と母音が連続したときに読みやすくなるように変化するプログラムを作成する。	コンパスを使った図形の書き方を指示するプログラムを作成する。	内外角や内角を求め、円を画いた後に角度を測りながら半直線をひき、内外角の和が180度であることを確かめる。	直線の命令を使って目的の場所までの道案内をするプログラムを作成する。
	思考	順次、比較する、理由付けする	分岐、評価、順次、反復	分岐、分岐する	分岐、評価	順次、反復、一般化	順次、評価
	教材	すぐプロ2	すぐプロ2	サリジェンワークシート	すぐプロ2	すぐプロ2	すぐプロ
発展的活動	概要		作成したリズムを、専用のScratchファイルを使って音を聞いて確認できる。	子音と母音やかなローマ字を組み合わせ、ローマ字ゲームを作成する。	実際にどのような図形が書けるかを、専用のScratchファイルを使って確認する。	考えたローマ字を、専用のScratchファイルに入力し、目的の多角形が書けるかを確認する。	動きの時間を使って、動きの距離を計算し、ロボットを目的の場所に導く。
	思考		評価、分岐	順次、共通するものを	評価、改善	評価、一般化	評価
	教材		Scratch(専用プログラム利用)	WISCUT	Scratch(専用プログラム利用)	Scratch(専用プログラム利用)	キーボード

教育ネットは、主に「情報モラル教育」や「プログラミング教育」の支援を行っております。当社では2018年度より、東京都のプログラミング教育推進校のサポート企業として、公立小学校におけるプログラミング教育のコンサルタント、教職員向けの導入研修、授業案作成、パソコンを使わないアンプラグドのプログラミング学習教材などを開発しております。情報教育に関する実態調査・解析・研究を行う研究組織です。情報モラル、プログラミング教育などの情報教育に関する長年の活動や、行政機関、学校と協力して培ってきた経験や知見を背景に『今の情報教育、これからの情報教育』をキーワードに研究を行う機関として幅広い研究活動を行っています。